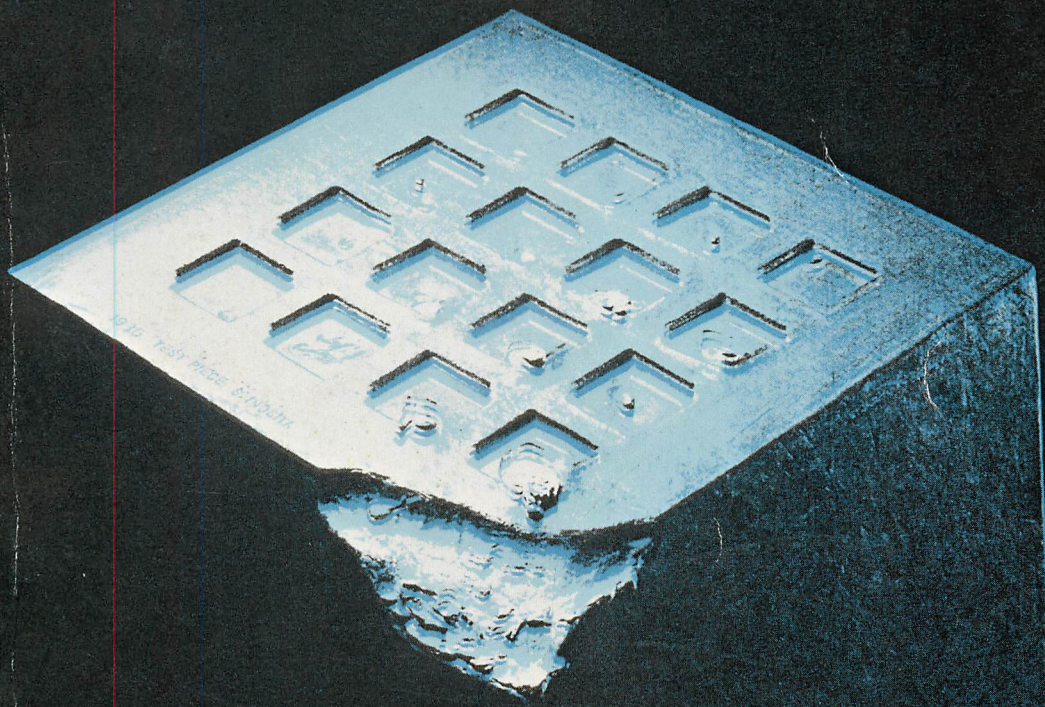


# 美術年報

徳島県美術家協会



1988

## はじめに

我々日本人の生活は最近頓に慌しく、ゆとりのないものになってきている。サラリーマンは毎日午後10時頃まで残業し、通勤の車にゆられ、身も心もくたくたになって我が家に帰ってくる。朝は7時頃には家を出てゆく。親と子の会話は勿論、奥さんとさえゆっくり話をする時間もない。これではお互いに意志の疎通を欠くのも無理からぬことである。家庭の崩壊が見えている。「食ってゆくために、金を儲けるために、昇進するために」である。

こんなことでよいのか？ 最近テレビはこの息苦しい日本人の生活を追ってその実態を放映している。中には給料が半減してもよい「ゆとりのある生活を」ということで田舎に転宅し、職業を変える人も出て来ている。これは世間からの逃避とは言えまい。その人達の顔色の何と生き生きとしていることか。しかし、私には日本人全員が転職し、住所を変えよと呼びかける勇氣はない。日本人はまだまだ外国に負けぬ経済成長とか学術の進歩とか目に見える成果をあげようと血眼になっている。

かつて第二次大戦で敗北という痛い目にあつたように何か手痛いショツクを受けぬ限り、「ゆとりのある生活を」なんて呼んでみてもふり返りもしないであろう。そこで、たまには自分で字を書き、絵を描き、彫刻をやってみるのも外のすがすがしい空気に触れることになり、いささかのゆとりが出てくるのでないだろうか。自分で直接手を下さなくても、立派な作品を鑑賞することも我々のはりつめた生活の上に潤いをもたらし、ひからびた生活を豊かにすることが出来よう。それくらいの時間は何としても工面したいものである。

昭和62年第42回県展（11月13日～11月23日）には1,213名が出品されている。第28回博美展（5月13日～5月31日）には469名の方が出品された。また62年9月には仙台と徳島の間で女流美術家の第16回目の交流がもたれるなど県民80万のうちから多くの方々に参加し大成果を収めている。更にこれ以外に数多くの展覧会が開催されており、それぞれに新しい、実り多い美術のあり方を探索している。また近く文化の森の美術館を飾ることになる海外著名作家の近代美術品が県民の前に展示（入場者16,290人）されたことも今年の徳島県美術界の大きな収穫であったと言える。昭和63年は徳島県美術界にどんな風が吹き込ま

れるのか？ 特に県美術家協会会員の皆さん方に期待される所大いなるものがある。

昭和 63 年 2 月

県美術家協会会長 砂 川 健 治

# 徳島県美術家協会規約

昭和23.9.12	規約制定
32.7.14	新規約制定
33.4.29	規約一部改正
42.4.23	〃
46.4.29	〃
47.5.29	〃
49.8.22	〃
52.7.23	〃
56.5.5	〃
58.6.5	〃
61.6.21	〃

## 第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし、県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑  
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ)展覧会 (ロ)講習会 (ハ)講演会  
(ニ)観光美術の振興 (ホ)その他必要な事業

## 第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

会 長 副会長（2名）

理 事（若干名） 監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんする。役員は任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さら

に10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

## 第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

部会長・委員（部会員数の3割以内）

部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員は任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり1,500円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

## 第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,000円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

## （参 考）

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（現在の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッチを選定（図案は鬼塚副会長）

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～4名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道）のうえに商業美術（58年度からデザインに改称）が加わり7部組織となる。

# 昭和61年度 事業報告

- (1) 総 会
  - 昭和61年 6月21日
  - 県郷土文化会館 第7会議室
  - 昭和60年度事業報告及び決算報告
  - 監査報告・承認
  - 昭和61年度事業計画及び予算審議
  - その他
- (2) 理 事 会
  - 昭和61年 4月15日 第41回県展など
  - 昭和61年 5月24日 昭和61年度総会開催など
  - 昭和61年 7月19日 第41回県展など
- (3) 第41回県美術展
  - 昭和61年11月 8日（土）～16（日）の9日間（県郷土文化会館）  
日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道・デザインの1,003点展示
  - 第41回県展受賞者表彰式（前川記念館）61.11.2（日）
- (4) 第27回博美展（県博物館共催）
  - 第1期 61.5.14～18 日本画・書道
  - 第2期 61.5.20～25 洋画・彫塑・工芸
  - 第3期 61.5.27～6.1 写真・デザイン
- (5) 県美術講習会（県教委共催）
  - 昭和61年 9月14日 徳島市中央公民館
  - 講 師
    - 理事 河 崎 良 行 氏
    - ” 濱 口 恵 氏
    - ” 鎌 田 邦 宏 氏
    - ” 井 下 俊 作 氏
  - 内 容 モデルを使った人物デッサンの実技講習
- (6) 美術年報の発刊
  - 昭和62年 3月
  - 県展記録・各部門の歩み・会員名簿など
- (7) 各部委員会・その他
  - 日 本 画 (62.2.15)
  - 洋 画 (61.4.22, 6.3, 9.19, 11.21)
  - 写 真 (61.6.8, 9.28)
  - 彫 塑
  - 美術工芸 (61.5.10, 6.6, 9.13, 11.7, 62.1.10, 1.31)
  - 書 道

- デザイン
- 第41回県展運営委員会 (61.6.28, 9.8, 12.6, 62.2.21)
- 第41回県展書道審査員打合せ (61.10.11)
- 第41回県展審査員 (書道・写真・デザインを除く) 打合せ (61.10.18)
- 県芸術祭移動県展
  - 池田会場 (61.11.22~24)
  - 牟岐会場 (61.11.28~12.2)

(8) 各種後援

- 第43回書芸院現代書展 (61.4.10~4.13)
- 石橋美術館名作展 (61.4.11~4.29)
- 正鋒会書作展 (61.4.11~4.13)
- 芹沢銈介展 (61.5.2~5.6)
- 第4回中央絵画クラブ展 (61.5.9~5.12)
- 第22回成蹊書道会展 (61.5.23~5.25)
- 県美協書道部選抜展 (61.5.23~5.25)
- 第45回世代美術展 (61.6.20~6.23)
- 第9回写真同人「炎」作品展 (61.7.4~7.6)
- 第42回新作日本画展 (61.7.11~7.13)
- 第10回個展西岡楚峰七十七作展 (61.7.18~7.20)
- 13人展 (61.7.25~7.28)
- 第16回東玄書道会展 (61.9.4~9.7)
- 第15回徳島雪心会書作展 (61.9.4~9.7)
- 第12回克展 (61.9.5~9.7)
- 第44回書芸院展 (61.9.12~9.15)
- 春藤大耿書作展 (61.9.20~9.23)
- 第41回青美展 (61.9.26~9.29)
- 第16回直心会書展 (61.9.26~9.28)
- 馬馳水墨画展 (61.10.30~11.4)
- 第23回成蹊書道会小品展 (61.10.31~11.2)
- 第7回書研社展 (61.11.22~11.24)
- 第2回春彩会日本画展 (61.11.28~11.30)
- 第21回清潮会書作展 (61.11.28~11.30)
- 第15回歳末チャリティー色紙・作品即売展 (61.12.12~12.14)
- 第2回笹尾芳石書展 (62.1.4~1.6)
- 第16回四国女子大学書道クラブ学外展 (62.1.17~1.18)
- 第13回桂鳴書道展 (62.2.10~2.11)
- 石川真五郎遺作展 (62.2.25~3.1)
- 第16回ナルトぴんぼけクラブ写真展 (62.3.20~3.22)

# 徳島県美術展開催運営要項

## 第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展（県展）と称し広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより 県内美術愛好家の製作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

## 第2条 (主催団体)

本展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

## 第3条 (開催運営の組織)

本展を開催運営するため、基本事項を審議決定する「県展運営委員会」と主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

### 〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の各分会から2名、県教委文化課から2名、徳島新聞社4名の合計20名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 県展の開催運営の基本事項について審議決定する。
- 2 審査員候補の推せん。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認。
- 5 その他

### 〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各分会から2名、県教委文化課1名、徳島新聞社2名の計17名でこれを構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備。
- 3 審査員の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇などに関する準備、手配。
- 4 収支予算案の作成。
- 5 開会式、表彰式の準備。
- 6 広報PRに関すること。
- 7 その他下準備に関すること。

#### 第4条 (出品部門)

県展の出品部門は日本画、洋画、写真、彫塑、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

#### 第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から

- 1 一般公募作品のうち主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品(入選作品)及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。  
その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。
- 2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格)

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選の受賞のないときは失格)
- (3) 年回を問わず特選又は準特選を6回得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格、特選1回と準特選5回、特選2回と準特選4回、特選3回と準特選3回、準特選6回の場合とする)
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

- (注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。
- ② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。
  - ③ 40回展までの準特選は2回をもって特選と同値とする。

#### 第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会の各部会から一定数の人数を推せんし、この中から事務局で選任作業を行い県展運営委員会の議を経て決定する。

#### 第7条 (審査)

審査は公開により行う。

#### 第8条 (入選、入賞数)

- 1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。



部 門 \ 区 分	特 選	準特選	特 別 賞	入 選
日 本 画	2	3	徳島県美術家協会会長賞	若干名
洋 画	3	5	徳 島 県 知 事 賞	〃
写 真	4	8	徳島県議会議長賞	〃
彫 塑	1	2	徳島県教育長賞	〃
美 術 工 芸	2	3	徳 島 市 長 賞	〃
書 道	4	13	徳島新聞社長賞	〃
デ ザ イ ン	2	3	四国放送社長賞	〃

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。賞はいずれも同格で毎年部門により1つつつ順位を変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

#### 第9条 (表彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金5万円
- 2 準特選……賞状、賞金2万円
- 3 入 選……全員に賞状と記念品

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県知事賞 1名
- 2 徳島県議会議長賞 1名
- 3 徳島県教育長賞 1名
- 4 徳島市長賞 1名
- 5 徳島新聞社長賞 1名
- 6 四国放送社長賞 1名
- 7 徳島県美術家協会会長賞 1名

※特別賞の選考方法については別にこれを定める。

#### 第10条 (収支予算)

本展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

本展の支出経費は事務局長の承認を経て行い必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2

月に開く運営委員会に報告し承認を得るものとする。

#### 第11条 (出品料)

県展の出品料は次の通りとする。

- (イ) 美術家協会員は1点2000円、2点目から1000円とする。
- (ロ) 招待、無鑑査、特別出品者は1点2000円とする。
- (ハ) その他の出品者は1点3000円、2点目から1000円とする。

#### 第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

一般・大学生	前売り	400円	当日	500円
高校生	前売り	200円	当日	300円
小中生	前売り	100円	当日	200円

#### 第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は県展運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

# 第42回展の記録

会期 (第1期) 62. 11. 13~11. 17  
 (第2期) 62. 11. 19~11. 23  
 会場 県郷土文化会館

## 日本画

〔審査員〕	松本 哲男			
〔特別出品〕	高岡 何有			
〔招待〕	村上 凌雪	長尾 弘子	荻野 行夫	橋本 正弘
	田淵 冬湖	中川 健	矢野 秋溪	
〔賛助出品〕	篠原 三叢	森 蔦苑	高田 瑞雪	釣島 冬樹
〔無鑑査〕	土方るみ子			
〔特選〕	岡 英彦	鶴 悦子		
〔準特選〕	土井 洋子	北島 節子	日浦 猛史	
〔入選〕	土肥 米吉	井原 順子	金子 綾子	三好 秀雄
	高田 愛子	松野 寛枝	木内 トシ	林 幸子
	近藤日出子	坂本美代子	柳田 一子	斉藤 誉
	吉崎 進	秋元よし子	美馬 郁子	吉坂美智子
	岩瀬 洋子	平尾 幸子	青木 優	三好 澄子
	佐々木文子	橋本 祐子	長谷 寿	前川 信江
	佐藤芙久恵	江上 豊	永井 貞枝	田中シゲミ
	北川 和博	小笠原豊雄	森見 喜美	松本千恵子
	仁木美貴子	西野 和男	中西 芳雄	斉藤 久代
	市岡 美紀	秦 照苑	萩野 拓郎	原郷由美子
	永井 佳奈	若山 一恵	後藤田 実	

## 洋画

〔審査員〕	国領 経郎			
〔特別出品〕	長井 公雄	佐野比呂志	故平沢いさむ	
〔招待〕	永山 隆二	清水 函典	中川 隆史	川原 康孝
	楠瀬 等	高橋 敬	立岩 巖	露口 敏幸
	服部 裕	長尾 弘久		
〔賛助出品〕	浅田 二郎	天野 節	今田 史男	大神 良代
	岡 多実子	柏木 雅雄	河田 安市	黒崎 志郎
	後藤田仁一	鈴木 勝次	武市善次郎	多田 青叙

	津地 威汎	板東 俊一	梶田 務	松川 寛
	小林 孔			
〔特 選〕	越久 高照	吉永 房子	峯 幸子	
〔準特選〕	桑原 健一	西川 周三	藤田 倫子	杉本 英治
	岡本 征二			
〔入 選〕	井沢 忠昭	武市 雅博	鈴木 明雄	杉本 英子
	勝瀬都志子	島村 英之	田所 米子	正見 絹江
	米沢 正嘉	水間 利生	正木ツル子	坂東 公恵
	尾崎 幸代	糸林 一馬	西川 敬子	佐藤 敬子
	松原 慶典	下内 裕次	浜野 三郎	谷崎 泰江
	小林 節子	青木 幸子	芝田 良子	岩佐 博久
	白石 謙二	関 美喜子	木村 健	加島 由季
	尾崎 降幸	唐下 美輪	近藤 英憲	山口美千代
	真野 孝彦	後藤ユリ子	手塚てる子	尾形 正二
	毛利 谷子	蔦 有賀里	新居 清美	金原 和美
	国見 聡	島川 君子	原田チエ子	岡野 弘子
	安西 京子	乾 繁春	金岡 義和	河野 英昭
	湯岑エミ子	秋本まり子	玉田 秀子	平野 聖治
	笹川 五月	騎馬 政美	芝 康弘	前野 亮治
	嵯峨 潤三	三好 初子	賀木 道子	都築 秀子
	南城ミツ子	松本 孝子	林 由紀	西 真一
	稲見 由香	披田 泰子	片山久美子	岡本 靖広
	村上 孝枝	石川 和子	久米三恵子	毛利 恵代
	堀浏 春美	溝浏 和代	阿部 佳代	大坂美知子
	大西 文代	古田恵美子	島上 二郎	大塚 政孜
	山下 浩平	美馬 弓子	豊茂 智	岡津 正敏
	馬詰 敏之	田中 崇	岡田 晋一	佐藤 和久
	山田 威臣			

## 写 真

〔審査員〕	岩宮 武二			
〔特別出品〕	福島 正二			
〔招待〕	増田 清次	井上 光雄	木田 英之	西條 征二
	勝西 雅夫	藤井 梵	武内 亨	笹田 敏雄

	櫛淵 魏	酒井 博司	三好 和義	上野 照文
〔無鑑査〕	前浦 芳久	古井 謙吉	多田 晴美	
〔特選〕	岩崎 英昭	橋本 圭祐	荒井 賢治	山口 元彦
〔準特選〕	安長 剛	佐野 辰夫	森 賢一	井藤 光章
	宮城 高士	勢嘉 雅章	富永 仁一	船越 正文
〔入選〕	納田 康雄	中川 定典	関口 務	堀淵 完治
	安長 剛(3)	佐野 辰夫	森 賢一(6)	難波 義勝
	増田 寿(5)	坂田穂氏(2)	堀本 信之	三木 晴夫
	井藤光章(7)	田中節雄(4)	田中富美子(6)	牛尾 頼成
	尾浦 元彦	篠原 文彦	篠原 元	足立洋規(2)
	堀口幸男(3)	野藤敏美(2)	蔵本 雅義	平川 和男
	大館 芳宏	前浦 正宏	橋本圭祐(3)	樽見 義(2)
	佐治 孝(5)	田所 勲	荒井賢治(7)	大和健司(4)
	杉本 福(3)	森住 博(2)	前坂祥文(3)	高橋敬堯(2)
	平野 史子	武知 正昭	国見 良幸	大津勝治(3)
	山口元彦(5)	森住 啓(3)	長谷 進	佐治利弘(3)
	一宮 喜八	粟田一輝(2)	藤本 一幸	柳本 正
	笠井 孝純	板東泰雄(2)	菅蔵 数久	井内 春行
	京野 義明	笹本 靖夫	板東鶴雄(2)	坂東 進(2)
	稲井芳男(2)	古川 博雄	宮川 茂	橘 信二郎
	竹原章子(2)	中村 敏雄	藤原 和夫	川口 進
	長谷昌男(2)	宮城高士(3)	鈴木憲作(4)	宝積 辰男
	大野 武(4)	大野泰子(2)	亀井 英之	武地 雅
	板東敏晴(3)	阿部 佳史	林 敏彦(2)	和田俊彦(2)
	田村泰弘(7)	折野理悦(2)	田中昭男(4)	伊達照子(2)
	小松 豊	中野建吉(6)	石山 正明	高田為一(3)
	富永章子(3)	富永仁一(3)	松本芳雄(2)	三宅 隆子
	井上 翔(3)	船越正文(2)	中川雅寛(2)	椎野 正彦
	倉橋隆人(2)			

彫 塑

〔審査員〕	木津 一夫			
〔招待〕	河崎 良行	佐藤 隆	濱口 恵	井下 俊作
	鎌田 邦宏	松永 勉		

〔無鑑査〕	玉田 悦子			
〔特選〕	吉田真理子			
〔準特選〕	小林 正則	渋谷 吉昭		
〔入選〕	居上 真人	柳沢 悦子	藤本 温子	沢井 良昭
	鎌田 千枝	美馬 智子	麻植 稔江	中本亜布子
	佐藤美和子	谷 礼子	加藤 美紀	南 清子
	加地真紀恵	山上 正一	丸岡 美香	志宇知宣代
	浅野 栄子	横田 明	三木 健司	真渊 昌代
	今枝 美加	元木 佳代	藤川美也子	中原 美穂
	藤本善太郎	乾 世史子	蒔田 寿	

## 美術工芸

〔審査員〕	浅野 陽			
〔招待〕	新居 猛	高橋 勇	森 昌男	森 浩
	七条猪三郎	多智花佐代子	松下 雄介	松下 慶一
〔賛助出品〕	村上 正典			
〔無鑑査〕	森 賢一			
〔特選〕	橘 恵	池北 久子		
〔準特選〕	森 行雄	平井 恵子	大伏 絢	
〔入選〕	橘 恵	中筋千代子	福山 光子	森 行雄
	森 明治	仁尾 郁代	杉原 素子	松山 豊
	三井 公子	後藤田喜一	大西 義浩	大西 勇
	森 里子	佐藤 勝子	門田 照子	井村アイ子
	畠 正	佐藤美津子	小栗加代子	鴨川美佐子
	青木 房江	西 浩子	森野 久子	伊豫 義之
	山本 和子	撫養ミツエ	堺 都美子	加地真紀恵
	島田 吉子	三寄 晃久	谷 育子	吉田 敏明
	光永 峡関	井後 宏	三井 八郎	新居 文子
	藤本善太郎	橋本 俊夫	福本アヤ子	岡崎 益子
	徳川 道泰	久積 忠臣	阿佐久美子	堤 公代
	村田 千秋	河野 雫	森本 太郎	

# 書 道

〔審査員〕	桜井 琴風	黒野 清宇		
〔特別出品〕	荒井 天鶴	田中 双鶴	田中 栢翠	故 富永 眉峰
〔招待〕	西岡 楚峰	久保 幽香	新居 藍州	讃岐 泰泉
	仲 三千人	宮井 青雨	長原 臯鵬	高原 清泉
	西 南龍	成尾 荘秀	渡辺 草石	長江 清幽
	原田 霄月	三木田 栖鶴	前川 古舟	清水 桂月
	美馬 幾美賀	春藤 大耿	岸 潮風	中谷 史子
	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉	三間 好鷺
	近藤 静苑	上田 溪水	日下 溪翠	岡島 順子
	荒井 彭仙	竹田 和代		
〔無鑑査〕	山口 華城	武市 鳴雲	吉岡 景鵬	松本 清香
	大石 加代子	浜 佳香	多田 清芳	
〔特選〕	藤若 美風	隅田 英二	近藤 美香	田中 秀翠
〔準特選〕	鎌田 博文	佐藤 真堂	西岡 五峰	伊丹 東龍
	富久 鳴泉	阿瀬川 寛司	檜原 溪川	薄田 喜代子
	北浦 喜流	宮城 明子	王城 乾香	永松 春苑
	中川 富量			

## ☆ 漢字の部

〔入選〕	佐渡 佳子	岩佐 薫	宇田 長末	川村 真澄
	奈木 邦夫	高田 由里子	浅川 陽子	高田 孝子
	沖田 章代	奥野 信夫	川城 輝昭	日下 司子
	曾川 由明	鳩成 広美	坂東 和子	坂東 武
	上野 喜久子	青木 博美	福井 民代	河野 憲二
	宇野 由岐子	谷崎 潤子	藤村 恭子	前田 晴子
	横田 典子	森上 修市	澤野 裕子	富永 泰寿子
	近藤 幸祐	菱崎 信義	馬居 美智恵	田上 洋子
	射場 博子	庄島 夏子	弘田 敏章	北島 佳美
	酒井 優子	鈴木 エリ子	福永久 美子	岡田 佐禧子
	井内 裕子	富士 あい子	山城 美三子	藤本 貴子
	寺内 喜一	久積 晃	黒田 美穂	原口 栄子
	洲崎 忠雄	吉本 和代	大西 京子	扶川 治子
	坂東 济子	山地 靖子	大下 富江	山ノ井 文昭

島田 秀子	速川 孝恵	長楽 優香	山本きよみ
村沢健太郎	米沢 佳余	森 裕美子	岩佐 弘子
榊原美佐子	中野 真希	片山 保	一宮 明美
大塚 俊美	亀石 二三	泉 香奈子	小井田境子
小井田真紀	田村 実	新居 寿	長江 達造
宇山 安俊	黒田 草苗	以西 寛敬	八木 澄江
駒田 澄子	能仁佳仔子	豊浦 佳子	山本 数馬
椎野 博	河野多美子	南 知枝	小松 文男
岡島 倍子	小西貴美子	高井 初子	新田 久代
成清 梢	吉田美乃里	斎浦 るみ	木村 英一
松下 寅雄	宇山 和治	有井 清	宇山 峯子
江川 栄子	大寺 薫	安田ひろ子	元木 英文
井村 信子	佐藤 博子	小柴 直右	大松 洋子
割石 浩子	中川 富量	鈴木 正友	小林 義治
南本みどり	松下 守	吉岡 愛子	古川 恵己
吉成啓一郎	田村 栄子	小川 光代	宮越 俊二
金山 恭子	杉本 優子	尾方 由香	細川 美佳
京野 美鈴	久保田みき		

### ☆ 仮名の部

〔入 選〕	板東 準子	頼野よし子	須藤 和子	中西 甫子
	小出 圭子	下村 清子	岸田いち子	松永 裕子
	岡田 妙子	由利 里子	笠井 宣江	中尾 勝子
	中野ハルエ	斎田 寿子	清村 宗子	西谷 公子
	福島 由子	阿部 豊彦	古郷 弘江	古郷 恵美
	坂田美智子	福島世津子	森 恵美	井内 滋子
	三津 栄子	谷口 博子	吉田 良枝	村岡善三郎
	山本 恵子	清水 嘉子	尾原 常子	岩谷 嘉子
	田中 久恵	中野 芳一	播磨 恭子	増田 恵子
	瀬藤 豊子	吉見ひとみ	吉田美重子	伊東 重子
	桜間 朱美	坂東万里子	近藤 久恵	佐藤 一美
	宮守 とみ	河野紀代子	足達 玉美	徳山 正光
	杣友 豊市	根津不美子	宮田久美子	大野香代子
	称木真佐子	倉本 節子	赤川久美子	澤野 裕子
	佐川 公子	西尾与志子	井上 彰夫	国見 幸子



川原 一恵	椎野 国子	大野真由美	亀山奈朱子
高見 典子	信長 美幸	椎野 薫	東 弥生
港 美智代	近藤夫佐子	米津 秀信	高島 正雄
西浦 智頼	尾田 艶子	竹中喜代子	近藤マサエ
三浦富美代	大野 照子	増田 愛子	後藤田公基
津田 尊子	井川 敏子	武市 勝恵	大塚 文子
河野 静江	藤原 育代	富士山市子	中一多喜子
田中 千恵	高谷 和子	藤田 千鶴	湯浅 佳子
西野 映子	出口末喜子	岩崎 敬子	坂野 雅子
稲井 国雄	重本 忠雄	国見美恵子	藤川 円子
町田江利子	山川真紀子	矢野 一代	株本マサノ
三谷 和子	西村 泰子	福井 民代	山口マサ子
天野 矩子	仁尾 郁代	広瀬寿美子	原田 喜代
和泉かず子	杉本千枝子	別役千代子	枝川 照子
兼任 幸子	榊 光枝	柴田 良	大塚 俊美
藤本満里子	亀石 二三	梯 雅子	溝渕久美子
大塚 智美	大橋亜希代	水口 尚子	小川 京子
河村 康子	北 真理子	寺岡 優子	徳永 玲子
広井 由美	富士 明美	藤川奈穂美	丸山 佳美
湊 泰子	森口 由美	安田 華子	上田 久恵
大上 美恵	田上貴実子	西村 佳子	二宮 由香
馬淵 晴美	宮田 里佐	梯 幸子	神野いずみ
笹田 真里	大西 玉美	大西 由美	加村喜美子
稲井真由美	小井田境子	大東 静代	藤本 晃代
小河 静佳	田辺喜久子	小濱 紫	益田 昌子
大松 洋子	坂東奈緒美	横田比呂美	中村三和子
矢部 洋子	川上 善生	山口 美恵	広島 章子
磐崎 恭子	吉田 有子	相城 禮子	横井三知代
加藤千代子	笠原小夜子	若木 恭子	大平美代子

## ☆ 近代詩文の部

〔入 選〕	下野 順子	仁田 典子	丸岡 良子	富永美知子
	高橋美知江	木田 史子	張 喜代子	福島 初子
	横谷千代美	春川 登	篠原 和枝	板東タマエ
	武市三奈子	天野 啓子	竹田 照子	平岡 郁子

折田 浩子	富川 博之	丸田 三恵	上野豊代吉
森岡 禎子	岸 緑	佐藤 正江	高木はるの
和田富美子	大野 秀子	山口 文子	福永 培子
大崎 辰雄	横堀 恵子	藤田 実	山下 美穂
青柳ひでの	野村 正勝	小野 幸久	坂東 幸男
河野 富子	竹内さい子	松本 栄次	佐原 武子
斉藤 房子	木元ユリエ	正木 民江	坂尾 俊一
清重 和雄	春名 完二	清水三智子	小田 順子
川人千枝美	藤本ひさ子	丸田 彭子	箭田 忠則
高岡 清	川人小夜子	桑村 清	柴田 公代
楨本 理	大島 清子	出原とし子	幸田 康代
中島 和子	岩本 雅三	美馬 美香	高瀬 善郎
長江 裕子	谷本 清子	加島 俊彦	川又 敏香
和田 悦代	坂本まゆみ	松本 和代	谷 総子
和田久美子	鳥井佐知子	久保 早苗	森口 典子
久米 安弥	松家 祥		

### ☆ 前衛の部

〔入 選〕	久保 安義	枘富 年子	伊丹 明美	一宮美代子
	萱原 弘子	豊茂 安江	西川 由美	森 美代子
	宮本 仁	久次米智子	小浜 勝美	南本 文子
	林 浩一	生田 康代	白川美奈子	大坂 昌代
	山下 敏幸	中川 博雅	竹内 政美	山田 幸司
	馬場 康雄	中川 健	坂本 光廣	吉岡 昌純
	木藤 裕全	小藤 勝己	竹内 康晴	東口 辰男

### デザイン

〔審査員〕	サイトウ・マコト		
〔特別出品〕	坂本三千一		
〔無鑑査〕	浅野 昌哉	斉藤 繁次	
〔特 選〕	伊藤 司郎	坂野美恵子	
〔準特選〕	斉藤志津子	速水 美加	岩佐 俊彦
〔入 選〕	福島 康仁	中山 克子	結城まゆみ
	中井千鶴子	河野美和子	丸山 照男
			丹下 智江
			宮本 靖

花菱 良一  
天羽恵子(2)  
重清 嘉宏

木邑 智子  
寺本 礼子  
木川 隆志

木内あつ子  
齐藤 刚(2)  
吉本たみこ

板東 清美  
山崎真紀子  
近藤 駿男

# 徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	(野 間 仁 根 家 永 三 郎)	委 員	
2	大 栗 旌 斤	野 間 仁 根	上 田 備 山	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
3	委 員	伊 原 宇三郎	同 上	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
4	委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝之助	小 野 由 行	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
6	西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	(鈴 木 信 太 郎 野 間 仁 根)	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	(辻 東 晋 堂 坂 東 文 夫)
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	菅 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勤治郎	同 上	安 田 周三郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ユキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂

# 展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書	道	デザイン
鬼塚 信之	委 員		
同 上	田 中 白 村		
同 上	炭 山 南 木		
同 上	炭 山 南 木・織 田 子 青		
同 上	手 島 右 卿		
同 上	同 上		
同 上	小 坂 奇 石		
明 石 朴 景	辻 本 史 邑		
会 田 裕 宣	織 田 子 青 (漢) ・ 出 口 草 露 (仮)		
鴨 政 雄	松 井 恕 流		
近 藤 悠 三	荒 井 天 鶴 ・ 後 藤 泰 秀 ・ 後 藤 田 香 石 田 中 双 鶴 ・ 田 中 柏 翠 ・ 富 永 眉 峰		
平 松 宏 春	同 上		
同 上	同 上		
大 西 忠 夫	同 上		
明 石 朴 景	同 上		
平 松 宏 明	同 上		
大 西 忠 夫	同 上		
鴨 政 雄	同 上		
平 松 宏 春	同 上		
内 田 邦 夫	同 上		
山 脇 洋 二	同 上		

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
23	松岡政信	山下大五郎	岩宮武二	井上武吉
24	山崎忠明	大沢昌助	棚橋紫水	菊池一雄
25	奥村厚一	齊藤真成	同 上	原 武典
26	梶 喜一	島村三七雄	同 上	掛井五郎
27	上原 卓	高田 誠	伊藤知己	松村外次郎
28	黒光茂樹	中間冊夫	岩宮武二	小島広志
29	松岡政信	島田章三	同 上	保田春彦
30	黒光茂樹	田中 岑	同 上	篠崎明雄
31	河合健二	田中忠雄	同 上	江口 週
32	長谷川青澄	山口長男	(岩宮武二) (伊藤知己)	一色邦彦
33	松岡政信	吉井 忠	(岩宮武二) (秋山庄太郎)	柳原義達
34	山岸 純	小西保文	岩宮武二	清水九兵衛
35	樋笠数慶	荻 太郎	同 上	桜井祐一
36	坂口麻沙子	吉井淳二	同 上	土谷 武
37	下田義寛	野見山曉治	同 上	山本正道
38	同 上	須田 寿	高田誠三	清水九兵衛
39	同 上	齊藤真一	同 上	城田孝一郎
40	下保 昭	津高和一	(岩宮武二) (高田誠三)	清水良治
41	橋田二郎	小松崎邦雄	奈良原一高	淀井敏夫
42	松本哲男	国領經郎	岩宮武二	木津一夫

美術工芸	書道	デザイン
槻尾宗一	荒井天鶴・後藤藤泰秀・後藤藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
山脇洋二	荒井天鶴・後藤藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰	
藤本能道	同上	
三井安蘇夫	同上	金野弘
六角穎雄	同上	大智浩
鈴木貫爾	同上	早川良雄
田村耕一	同上	原弘
山脇洋二	同上	田中一光
浅野陽	同上	奥野英雄
前田泰次	同上	灘本唯人
山脇洋二	同上	大高猛
中村光哉	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州	福田繁雄
山脇洋二	同上	永井一正
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰	山城隆一
同上	同上	粟津潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	田中一光
同上	同上	長友啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰	亀倉雄策
中村光哉	明石春浦・坪井正庵	伊蔵憲治
浅野陽	桜井琴風・黒野清宇	サイトウ・マコト

## 第42回県美術展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数		76	289	728	44	104	985	134	2,360
人数		68	195	167	36	72	567	108	1,213
入選	率	63.2%	33.6%	29.4%	68.2%	50.0%	43.1%	20.1%	37.8%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	4	2	18
	準特選	3	5	8	2	3	13	3	37
	入選	43	89	202	27	47	408	22	838
	計	48	97	214	30	52	425	27	893
落選	率	26.8%	66.4%	70.6%	31.8%	50.0%	56.9%	79.9%	62.2%
	落選	28	192	514	14	52	560	107	1,467
招待等	招待	7	10	12	6	8	30	0	73
	無鑑査	1	0	3	1	1	7	2	15
	特別品	1	2	1	0	0	3	1	8
	替出品	4	17	0	0	1	0	0	22
	計	13	29	16	7	10	40	3	118
展示数		61	126	230	37	62	465	30	1,011



## 各部記錄

# 日 本 画 部

部 会 長 荻 野 行 夫

## 年 間 展 望

### ◎ 第28回 博美展（第2期 5/20～5/24 県博物館）

作品が例年よりひとまわり大きくなり点数も増えて来ている、にも拘らず壁面の制約で応募点数の約半数近くしか陳列できなかつたのが非常に残念であった。

いつも作画にあたっては対象物から受けた感動を大事にしてほしいものである、そうした作品が今年も数多く見られてうれしかった。どうかすると、何をかきたかつたのか、はじめの感動を忘れがちなものであるが、絵はやはり頭でかくのではなく、心でかくものだと思うことが大切である。

博美賞の原郷由美子「萌ゆ」は淡いトーンのなかに静かに深く青春の心に問いかけ、対象の感情にまで迫ろうとする作品で格調高い作品であった。優秀賞の井原順子「夜更」は重厚なマチュールで真正面から取り組んで努力作であり、同じく優秀賞の吉見友美「赤い実」はごく身近な題材に大きな宇宙へのひろがりを感じさせて若々しい作品であった。ほかに金子綾子「朝騒」、近藤雅世「ナンテン」などが目についた。（公募点数34点 入選19点）

### ◎ 第43回 新作日本画展（7/10～7/12 県郷土文化会館）

今回は出品点数が前年より29点増の85点が出品された。毎年行っている優秀作品の表彰については新作大賞を2点に増し彩色と水墨に分け、それぞれに大賞を1点ずつ当てた。

新作大賞になった「曼珠沙華」福田佳代子は秋の野の季節感がいっばいにあふれた色感もよし、すっきり仕上がっていた。またもう一つの大賞「朝」津田津保三は黒白に薄いピンクの着色、落葉した晩秋の雑木林から朝の澄み切った空気が良く描けていた。新作賞の「黄色咲く」船戸章江は菜の花がテーマ、蝶をあしらい柔らかいムード、同じ賞の「菊」高田愛子は色（絵具）の使い方に独特の技術を発揮し優雅な感じを出していた。

このほか多くの努力作に加え委員の作品も展示して新作展を盛会に終えることができた。

彩色の部……（新作大賞）「曼珠沙華」福田佳代子

（新 作 賞）「黄色咲く」船戸章江、「菊」高田愛子、「すみれ」柳田一子、  
「白い花」平井そめ子

（佳 作）「風になりたかつた夜」岡本君代、「春日」永井佳奈、「はな」  
三好澄子

水墨の部……（新作大賞）「朝」津田津保三

（新 作 賞）「春を待つ」浜口芳春、「春を待つ」増田澄子

（佳 作）「流韻」原田健彦、「緑響春鐘」高橋貞順、「清韻」角田紅谿

### ◎ 第42回 県美術展（11/19～11/23 県郷土文化会館）

審査員には日本美術院同人の松本哲男先生にお越し頂いた。今回もまた例年を上まわる大

作の応募作品がならぶなかで厳正に審査が行われた。(公募点数76点、賞5点、入選43点)

(審査総評)=レベルが高いので本当に驚いた。制作の密度が高く、技術がしっかりしている。ただ賞クラスの一部の人と、そうでない人たちの段差が大きく、中間がなかった。賞クラスの方は甲乙つけ難い技術と日本画に対する心構えがあり、中央画壇でも十分通用する力を持っているように思われた。しかし、賞クラスの人でも、もう一つ弱い。雰囲気だけでなく、物の実体に迫るファイトを燃やして欲しい。

特選「橋」岡英彦、「野辺に咲く」鶴悦子

準特選「コスモスのリズム」北島節子、「白い朝」土井洋子、「二人」日浦猛史

### <会員消息>

3月の第27回日本南画院展では長谷寿氏が文化賞を受賞され、4月には第22回日春展で岡英彦氏が入選されている。次いで11月の19回日展でも日展会友の橋本正弘氏が「中庭」を、そして岡英彦氏が「橋」を出品され、それぞれ連続入選をされている。

このほか中央展または諸展に参加出品されご活躍の会員の皆さんを次にご紹介します。

1月	日本画洋画合同新春展	四国電力鳴門ギャラリー	高田瑞雪・釣島冬樹
2月	第11回色紙小品展	シビックセンター	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪
〃	画展ふるさと	県郷土文化会館	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪・長谷寿・津田津保三
〃	丈六寺絵画奉納展	県郷土文化会館	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪・長谷寿・津田津保三
3月	第27回日本南画院展	東京・京都・大阪美術館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿(文化賞)・高田瑞雪
4月	第16回徳島市文化展	県郷土文化会館	徳島市日本画部会員ほか
〃	村上凌雪墨翠展	上板町中央公民館	村上凌雪ほか
〃	第22回日春展	東京銀座・松屋	岡英彦(入選)
5月	日本墨彩画院展	香川文化会館	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪・長谷寿・津田津保三
〃	第26回阿南市美術展	新居浜市共同美術館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・今川一水
〃	第25回小松島美術展	阿南市民会館	篠原三叢
6月	春の文化展	小松島市中央会館	鳴門市日本画部・全員参加
8月	絵で見る徳島展	鳴門市市民会館	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪・津田津保三
〃	阿波へんろ道	県郷土文化会館	釣島冬樹
〃	鳴門美協(海展)	四電鳴門ギャラリー	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿
〃	中央展出品絵画展	県郷土文化会館	長尾弘子・木内トシ・土井洋子・土方喜美子
9月	第63回県女流美術家展	県郷土文化会館	
	第16回仙台・徳島文化交流女流美術家展		

9月	有秋会日本画展	大阪天王寺美術館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・ 江上豊溪
10月	第21回珀雲社日本画展	県郷土文化会館	篠原三叢・森蔦苑・長谷寿
〃	第40回鳴門市展	鳴門市民会館	鳴門市日本画部・全員参加
〃	阿南市文化祭展	阿南市民会館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿
〃	小松島市展	小松島市中央会館	篠原三叢
〃	那賀川町展	那賀川町民センター	篠原三叢
11月	第3回春彩会日本画展	県郷土文化会館	中川健・吉崎進・齊藤誉・日浦 猛史・中西芳雄・上原圭子・金 子綾子・三好秀雄・前川富子・ 森見喜美・森内明子
〃	天井画制作	那賀川町・八坂神社	篠原三叢
〃	第64回県女流美術家 小品チャリティ展	シビックセンター	長尾弘子・木内トシ・土井洋子 ・土方喜美子
〃	第19回日展	東京都美術館	橋本正弘（入選）・岡英彦（入 選）
12月	第17回恵生社墨絵展	県郷土文化会館	江上豊溪ほか
〃	第3回矢野秋溪個展	四電徳島支店展示場	矢野秋溪

#### ☆部会委員会の開催

- 62.2.15 第41回県展の経過報告について
  - 第42回県展・審査員の詮衡について
  - 第28回博美展の開催要領と運営委員（審査員）の選任について
  - 県美術家協会の62年度総会代議員の選任について
- 5.24 昭和61年度事業報告と会計報告並びに62年度の事業計画について
  - 第43回新作日本画展開催について準備打合
  - 役員の改選事項について
- 7.9 第43回新作日本画展の搬入審査会
- 10.25 第42回県展の審査を終えて審査員を囲む会
- 11.18 第42回県展の飾付と反省会

# 洋 画 部

部 会 長 佐 野 比 呂 志

## 年 間 展 望

### ◎ 第28回 博美展（5/27～31 県博物館）

本年より出品点数一人1点となり、出品数99点、入選46点、かなりの厳選となる。展示点数は、審査員、委嘱を合わせて50点。

- 審査員 佐野比呂志、永山隆二、平沢いさむ
- 委 嘱 藤川明子
- 博美賞 杉本英治「駅」
- 優秀賞 前野亮治「きざし」、越久高照「ローカル駅」、森直哉「波止場」  
芝田良子「アネモネ」

### ◎ 第42回県美術展（11/19～23 県郷土文化会館）

審査員は日展評議員の国領経郎画伯、宮本三郎記念賞受賞、日展系作家としては異質な表現で著名である。

審査総評 地方としては普通のレベル、専門的作家としての力量のある人、突出した作品が少なかった。趣味的で生活の中で絵を楽しんでいると感じた。しかしみんな一生懸命描いている点は好感が持てた。

特選のうち特別賞の越久高照の「朝の風景」は、小さい作品だが、独特の新しい風景の世界を作りあげている。縁の調子がよく重量感もある。赤い自動車もよいアクセントになっている。

吉永房子の「夕暮れ」は、さらっと描いているようで重厚さがあり、動きもよく描けて、墨絵の表現に通じるものがあり、メルヘンの世界を思わせる。

峯幸子の「饗宴」は、古典的な素材を、現代感覚的に表現しておもしろく、力作である。ただ描きこみに弱さを感じる。マチエールの研究も期待したい。

準特選は、桑原健一「幸町1丁目雨の巣立ち」、西川周三「河口の船」、藤田倫子「Red table story」、杉本英治「橋のある風景」、岡本征二「ネエ聞いているの」、の5点。

将来も更に県展、博美展が、県下のすべての洋画家の発表の場の核となって、発展することを祈念してやまない。

### <会員・個人消息> ※美術年報名簿順

- 今田史男 美術文化展・美術文化関西展（努力賞）・美術文化四国展出品。  
サロンド・ルージュ展（阪神百貨店）、青美展（郷文）、17人展（徳島和光ビル）、自在派展（東京・町田ビル）
- 大神良代 自由美術展出品、県女流美術展。
- 岡多実子 新象展、日ソ選抜展（福岡等）出品。

- 県女流美術展（郷文）、県女流小品展（アミコ）。  
 東光会展・東光会徳島支部展、青美展（郷文）。  
 全美展（アミコ）、世代美術展（アミコ）。  
 旺玄会展・旺玄会徳島支部展出品。  
 7月会展（東京・ヤマト画廊）中央展出品絵画展（郷文）。
- 河野太郎 療養中。
- 騎馬政美 美術文化四国展出品。青美展（郷文）、17人展（徳島和光ビル）、自在派展（東京・町田ビル）、バックス展（アミコ）。
- 黒崎志郎 示現会展出品
- 後藤田仁一 美術文化展・関西美術文化展出品（大阪市立美術館）。  
 世代美術展（アミコ）。
- 斎藤靖子 日本板画院展。  
 絵で見る徳島展（郷文）、21人展（東新町・イースト）。
- 佐野比呂志 独立展、関西独立展、全展出品。徳島市展・博美展審査委員出品。全美展、  
 世代美術展（アミコ）。
- 四宮久子 二紀会展・神戸二紀展・徳島二紀展出品。
- 清水亟典 モダンアート展出品。  
 現代洋画精鋭選抜展（東京・銅賞）、第7回個展（丸新）。
- 鈴江栄治 二科展入選。試展（郷文）。
- 鈴木勝次 青美展（郷文）。第22回山賊個展（丸新）
- 高橋 敬 創造美術展出品（大阪市立美術館）。17人展（和光ギャラリー）。
- 多田青叙 一水会展・水彩連盟展出品。
- 津地威汎 国展出品。  
 ニューエリア熱き芸術家たち展（高知・徳島郷文）、試展（郷文）。
- 中川隆史 形象派展出品（愛知県美術館）、関西水彩画展（大阪市美術館）出品。  
 世代美術展（アミコ）。
- 中村晴代 全美展、中央絵画クラブ展（アミコ）。
- 永山隆二 美術文化展・関西美術文化展出品（大阪市立美術館）。  
 世代美術展（アミコ）。
- 橋本政典 ニューエリア熱き芸術家たち展（高知・徳島郷文）、試展（郷文）。
- 秦 文雄 藍住町美術展（緑の広場）。世代美術展（アミコ）。
- 服部 裕 個展・海風展（青少年センター、県芸術祭優秀賞）。
- 林 信夫 全美展・とくしま美術グループ展（アミコ）。
- 藤川明子 徳島市展（招待）、博美展委嘱出品。  
 全美展、中央絵画クラブ展（アミコ）。
- 藤田倫子 博美展入選。小松島市展（公民館）、水木会5人展・2人展（小松島市・やまなみ）。

- 山口和子 徳島市展（招待）、全美展・中央絵画クラブ展（アミコ）。
- 佐藤敬子 博美展入選。青美展（郷文・石川賞）、鴨島美術クラブ展（郷文）。
- 関 政明 3人展・日本の民家百選展（そごう東京店）。
- 石原 弘 東光会展・東光会徳島支部展（郷文）。  
第10回油彩近作展（ベルモニーパレス）。
- 尾崎素子 東光会展・東光会徳島支部展（郷文）、白鳳グループ展（鳴門市図書館）。
- 河野公子 鳴鳴市展（鳴鳴市体育館）、平和展・青美展（郷文）、17人展（和光ギャラリー）、パッカス展（アミコ）、親子展（四電ギャラリー）。
- 大宮和雄 青美展（郷文）
- 中辻奈美枝 二紀会展・徳島二紀展出品、池田市美協会員展（大阪池田市、ふらんじゅ画廊）、試展（郷文）。
- 島村英之 示現会展出品。
- 住友義彦 羽ノ浦町文化祭（町体育館）。
- 武市善次郎 平和美術展（郷文）、虹の会展（四展ギャラリー）、青美展・石井美術の会展（郷文）、17人展（和光ギャラリー）、個展・北海道から四国5,000kmの旅（石井町・真野ギャラリー）。
- 立岩 巖 全展・関西全展（両展奨励賞）、全美展（アミコ）、石井美術の会展（郷文）、17人展（和光ギャラリー）。
- 富野 徳 旺玄会展出品、青美展、石井美術の会展（郷文）。
- 仁宇暁子 形象派展（愛知県美術館）、17人展（和光ギャラリー）、県女流美術展（郷文）。  
第9回個展（U Z U珈）、冬期デッサン大学油彩賞（高知）。
- 前野亮治 博美展（優秀賞）。
- 松川 寛 モダンアート展・モダンアート徳島支部展・モダンアート明日への展望展（横浜市民ギャラリー）。ニューエリア熱き芸術家たち展（郷文）、日伊文化交流フェスティバル・フローレンス展（ウイット賞）。
- 毛利谷子 東光会展入選・東光会徳島支部展、県女流美術展（郷文）、県女流小品展（アミコ）、石井美術の会展（郷文）。
- 板東俊一 大潮展出品、第1回・第2回藍住町美術展（緑の広場）。
- 堀切篤子 全美展（アミコ）
- 三好初子 東光会展・東光会徳島支部展出品、徳島市展（市長賞）、藍住町美術展（緑の広場）、県女流美術展（郷文）、県女流小品展（アミコ）。
- 岡本征二 徳島二紀展。ニューエリア熱き芸術家たち展（高知・徳島郷文）、試展（郷文）、土曜展（万代アート）、鴨島町総合美術展（本郷ギャラリー）。
- 下時治郎秀臣 白日会展・白日会員選抜展（名古屋・日動画廊）、白日会選抜展（東京・三越本店）、鴨島美術グループ展（郷文）、鴨島町総合美術展（本郷ギャラリー）。
- 林 伸也 ニューエリア熱き芸術家たち展（高知・徳島郷文）、試展（郷文）。

- 真野孝彦 個展（徳島市・トマト）、個展（鴨島町・ファイブ）。  
二紀会展、博美展入選、青美展、鴨島美術グループ展（郷文）、鴨島町総合美術展（本郷ギャラリー）。
  - 浅田二郎 東光会展・東光会徳島支部展出品、中央展出品絵画展（郷文）。  
個展・第7回ふるさと賛歌（郷文）。
  - 河田安市 日展入選、白日会展出品、絵で見る徳島展、中央展出品絵画展（郷文）。
  - 田所米子 博美展入選、平和美術展、青美展（郷文）。
  - 真鍋弘子 鎌田姓が変更。
  - 金岡義和 二科展入選。
  - 川原康孝 関西全展（兵庫県立アートギャラリー）、青美展（郷文）、全美展（アミコ）、土曜画会展（池田会館）、三加茂町民絵画展（三加茂町歴史民俗資料館）。
  - 川原真琴 土曜画会展（池田会館）、三加茂町民絵画展（三加茂町歴史民俗資料館）。
  - 山口美千代 青美展（郷文）、山口美千代作品展（池田町・ジャスコ）。
  - 長井公雄 長井公雄作品展（大阪・梅田画廊）。
- なお、会員の第42回県展出品状況については、省略しました。本誌上県展記録を参照して下さい。

#### ◀部会長平沢いさむ先生逝く▶

県展創立以来、その歴史を背負って、成長と発展を一筋に願って生きられた、多大な功績の人、平沢いさむ先生が去る8月9日死去された。78歳でした。全くと言える程、私利私欲のない人で、売名を特に忌みきらった。

抽象美術華やかな頃、自由美術展で長く活躍され、厳しく、そして詩情豊かに絶妙の美をたたえた作品であった。

水際立った真の芸術家としての人間平沢先生の思い出は、いつまでも私たちの心に残ることだろう。

#### ◀故福野 稔氏▶

去る4月9日死去、47歳。氏は、洋画部会員として、県展特選、準特選を重ね、無鑑査出品ともなる。新世紀美術展の常連でもあった。

11月2～3日、福野 稔遺作展が勝浦町住民福祉センターで、勝浦美術の会主催のもとで行われた。グループ油絵展も併催され、盛会でした。



# 写 真 部

部 会 長 西 條 征 二

## 年 間 展 望

- ◎ 博美展 5月13日～17日 博物館大ホール。

展示壁面の都合上1人1点の出品制限のためか作者自身が、かなりのセレクトし出品してきているので、低調な作品は少なかった。博美賞「ベンジュウム」菅蔵数久は構成、色、バランスともに完ぺきに近い出来栄である。優秀賞「砂嵐」西山敏夫、「休日」増田寿、「ハプニング」大和健司、「夏日」山本和哉が選ばれた。審査員西條征二、井上光雄、笹田敏雄。

- ◎ 第42回県美術展（2期）11月19日（木）～23日（月）、県郷土文化会館。

新規約になり2年目を迎え、充実した県展になった。本年は大阪芸大教授、岩宮武二先生のユーモアあふれる懇切丁寧な審査で行われた。出品作品の技術的レベルは全体的に高く以前に増して充実し、その内容に感動した。徳島写真界の水準は高く、作品も片寄らず、バラエティーに富んでいる。他県に比べモノクロ写真が盛んな点も見逃せない。県議会議長賞の岩崎英昭「空間」は絶妙なる自然現象を克明にとらえた風景写真で、そのパーフェクトさが光る。作者が同じ場所に立つことが出来ても、二度と同じ作品が撮れない。一瞬のチャンスを大切にす“一期一会”の精神を高く評価していた。特選に橋本圭祐「跳る」、荒井賢治「サリー」、山口元彦「雨足」が選ばれ、その作者のもつ感性とフレーミングは見事と言えないと選評をいただいた。

- ◎ 二科展（35回二科会写真部）毎年出品数も多くなってきた。田中節雄「阿波踊」、田中富美子「黄昏」、増田寿「帰り道」、久米健雄「小川の灯」がそれぞれ入選した。

- ◎ 美協写真部会 「倉敷」撮影旅行を6月7日（日曜日）に計画、盛会に実施された。貸切りバスにて阿南合同庁舎前6時10分出発し、倉敷撮影後19時30分徳島帰着の予定にて行われたが、瀬戸内海濃霧のため出航出来ず、四国村および琴平撮影に変更になった。福島正仁先生の審査にて作品コンクールが行われた。

推薦 大野 武

特選 梶淵紳哉（2点）、森 賢一

入選 梶淵紳哉、大野 武、林 敏彦、安長 剛、石田良材（3点）、上野照文。

- ◎ 全日写連徳島県本部（委員長 井藤光章）各撮影会入賞作品をアミコビル5階市民ギャラリーに展示する。

☆ 徳島公園モデル撮影会。

推薦 大橋以手紙

特選 佐治 孝、村川浩一、井上 翔

☆ モダンダンス撮影会

推薦 西條征二

特選 大野武、森 賢一、井藤光章

☆ 野外彫刻撮影会

推薦 井上光雄

特選 上野照文、佐治 孝、大津勝治

☆ 阿波踊撮影会

推薦 杉本 福

特選 田中富美子、高藤敬堯、佐治孝

◎ 犬飼農村舞台第一回写真公募展が犬飼農舞台現地で5月3日舞台上演と同時に展示された。

推薦（徳島市長賞）西條征二

◎ '87関西カメラクラブ対抗写真コンクール発表展は大阪富士フォトサロンで224クラブの参加があり徳島県では写真集団「渦」が入選した。

◎ 第21回県芸術祭（写真部門）に坂東 孝「散歩道」が優秀賞になった。

◎ 第17回徳島県教職員美術展には審査員として 櫛淵 魏（美協写真部会理事）、招待には井上光雄、西條征二、武内 亨、酒井博司、勝西雅夫、増田清次が参加し徳島県郷土文化会館3Fに展示された。

◎ 徳島新聞読者写真コンクールには一年間の長期にわたり、美協会員から多数の会員が入賞をはたした。（クラブ及び個人消息を部会長あてにお便り下さい。）

◎ 主なる展覧会は次のものが開催された。

☆ ナルトびんぼけクラブ写真展

3月20（金）～22日（日）鳴門ショッピングセンタージャスコ4F特設会場

☆ 第5回写真集団「風」作品展

4月17日（金）～19日（日）アミコシビックセンター5F

☆ '87「光彩」写真展

5月8日（金）～10日（日）県郷土文化会館

☆ 第5回フォトクラブ「写撮」写真展

6月12日（金）～14日（日）アミコビル5Fシビックセンターギャラリー

☆ 第7回写団「未知草」作品展

5月15日（金）～17日（日）アミコシビックセンター5Fギャラリー

☆ 第13回小松島カメラクラブ写真展

5月23日（土）、24日（日）、県郷土文化会館3F

☆ 昭和62年度春の文化展

6月5日（金）～7日（日）、鳴門市市民会館

☆ 第10回写真同人「炎」作品展

6月26日（金）～28日（日）アミコシビックセンター5Fギャラリー

☆ 第1回写真集団「青」写真展

7月3日（金）～5日（日）、県郷土文化会館3F

- ☆ 第1回JCCフォトクラブ写真展  
7月18日(土)～19日(日) アミコシビックセンター5F
- ☆ 第3回イメージフォトクラブ展  
8月21日(金)～8月31日(月) アミコ市民ギャラリー
- ☆ 第22回光展  
9月13日(日)～15日(火) アミコシビックセンター5F
- ☆ 第27回写楽会写真展  
9月25日(金)～27日(日) アミコシビックセンター5Fギャラリー  
特別出品 福島正仁
- ☆ 第10回ひまじんくらぶ写真展'87  
9月25日(金)～27日(日) 県郷土文化会館3F
- ☆ 日光会写真展「吉野川平野」  
11月6日(金)～8日(日) 県郷土文化会館3F
- ☆ 明治大正写真作家クラブ展  
11月7日(土)～9日(月) 県郷土文化会館3F
- ☆ 第8回徳島女性を写す会「女の写真展」  
12月4日(金)～6日(日) アミコシビックセンター5Fギャラリー
- ☆ 第17回徳島県教職員美術展  
1月22日(金)～24日(日) 県郷土文化会館3F

# 彫 塑 部

部 会 長 河 崎 良 行

## 年 間 展 望

第42回県展は、二紀会理事である木津一夫先生に審査をお願いした。審査評としては、「どの地方にもありがちなことだが、審査の対象にならないような低次元の作品が少なく、彫刻熱の高さがうかがえた。」とのことでした。また、抽象作品が少ないのには驚いた様子であった。

本県においてもかつては、床間の置物的な小品、人形とか仏像彫刻などが多く出品されていた時代があった。最近では、現代彫刻の在り方が一般に理解されてきたのか、それとかけはなれた作品は殆どなくなってきた。

抽象作品の少ないことは近年、毎年指摘されている。かつての抽象全盛時代に活躍した常連が現在では招待等で審査をうけないとか、またそうしたベテランの不出品が手伝ってのこともある。それ以後の出品者が殆ど具象である。これは、中央での公募展でもわかるように具象作品が主流を占める会派が多くなっており、そうした時代の風潮が影響しているのかもしれない。やはり、展覧会構成としては抽象作品もありパリエティーに富んでいる方がいい。具象の中においても素材の拡がりしてほしい。塑造的なものだけでなく実材を用いた作品の出品が望まれる。

また、「四国の土地柄としては、石の彫刻などもっと出品されてもいいのではないか。」との審査員からの指摘もあった。その点42回の県展で特筆できるところは、1点だけであるが石彫の大作（「月下氷人」居上真人）の出品である。これまでは展示を室内のみに限定し、大きさや重さを制限していたが、42回展より、規定外（室内展示の）作品を野外展示できるように募集規定を変更した。今後は、こうした野外用作品が多く出品されるようになれば、野外展示場も充実し新しい展開をみせるものと大いに期待している。

個人の作品としては、吉田真理子「潮風」が特選に選ばれた。彫刻の基本を大切にしていることと作品の意図がはっきりと表現できていることが評価されたようである。現在、徳島大学在学中の新人で今後が期待される。準特選の小林正則「立つ」も、長年の努力が実って全身の構成や表現力とも長足の進歩のあとがみられ今後が楽しみである。もう一つの準特選、渋谷吉昭「待つⅡ、遠くに空がみえる」は、発想のおもしろさと作品に隠された意図や思想に審査員は強い関心を示していた。これまでの県展では見られなかったユニークな作品であり、今後の展開に期待がもたれる。

部会の行事としては、8月16日、中央公民館において62年度県美術講座（デッサン実技）を実施した。講師として彫塑部会の理事3名（鎌田、浜口、河崎）が指導にあたった。

また、今年は3年ぶりの第2回「彫塑部会展」を12月10日～13日まで、県郷土文化会館で開催し、部会活性化のための振興策としてかねてから検討していたものである。22名から30点の出品があり盛況であった。会員外から14名の出品者があり、特に上田久利（「女」石こう、全

身)、三原敏文(「ある声楽家の肖像」木彫) 両氏などの優れた出品作があり、部会員にとっても大きな刺激となり、部会展としての成果をあげ得たものと考えている。

<個人消息>

大津 文昭	二紀展出品	東京都美術館
鎌田 邦宏	二紀展出品	〃
河崎 良行	個展	東京・西銀座・みゆき画廊
	第5回ヘンリー・ムーア大賞展・優秀賞	美ヶ原高原美術館
	二紀展・田村賞	東京都美術館
浜口 恵	モダンアート展(版画)	東京都美術館
	関西モダンアート展(版画)	大阪府立現代美術センター
松永 勉	行動美術展出品	東京都美術館
	個展・県芸術祭優秀賞	県郷土文化会館

# 美術工芸部

部会長 森 昌 男

## 年間展望

### ◎ 第28回博美展（第二期 5/21～5/25 県博物館）

前回に比べて量的にも変わりが無いが、質の面で今一步の感じがある。特に若い層の進出が目ざましく新しい素材の取りくみとしては喜ばしいことである。今回は展示のスペースが限定され一人1点の出品作となった。全体的に伸びのびと制作され自己の主張また個性が表現されている作品が多くみられ、しかし中には少々の難点はあっても将来への可能性のある作品も得られた。博美賞の「青」岡部育子は素材を生かし、色調がよく全体的にまとまっている。モチーフの表現に工夫されてほしかった。

優秀賞の「海の幸」、福永福子は絞り染めで空間の構成がうまい。黒色のフレームで充実感がよく表れている。前野恵子「響」の木彫、小栗加代子の「バラ星雲」はデザイン、色彩、構成がよい。福本アヤ子の「偏つぼ」はユニークさがあり、三井八郎の「象嵌つぼ」は効果的である。また四十宮年代の「光の華」は意欲作でよい。斉藤和彦の「彫金七宝飛翔」は透彫はよいが、デザイン、構成に一工夫がほしい。概して力作が多いが、作品に意志のはっきりした表現がほしかった。

今後の研修目標としては、ベーシックデザイン、創造的表現力、鑑賞力を充分養うことである。

### ◎ 第42回県美術展（二期 11/19～11/23 県郷土文化会館）

今回の審査には予定していた東京芸術大学教授、浅野 陽先生にお越しを願った。前年に引き続き今回も意欲的な大作がならぶ中で審査が行われた。審査総評では、出品作品も陶芸、染色、織物などバラエティーに富んでおり、全体の水準は一昨年よりはるかに向上している。個々の評としては、徳島市長賞に選ばれた橘 恵の「たそがれの海峡、(着物)」は藍の深みのある色合いがよい。一見地味に見えるが、ひざやそでのところに模様があしらわれ着物を着たときにイメージが更に膨らむのではないかと、美術工芸の分野は、実際に使用してみてどうさせるかという点が大切である。

準特選の池北久子の「太布帯」は織りの技術も丁寧で色合いも軽やかで伝統の上に立って現代の軽やかさを表現しているのは見事、準特選となった森 行雄の「窯変つぼ」はロクロの使い方がうまい。技術的にもしっかりしており網目模様も新しい技法ではないだろうか。犬伏絢の「晩秋、紬着物」は色と織りがよい、若い女性が着る姿をほうふつとさせるイメージがある。平井恵子の「壁かけ、浅春の軌跡」は構成力がすばらしい、エネルギーで力強いところが魅力だと評された。美術工芸は分野が広いのでそれだけに、分野の異なるところの審査は非常に苦勞する。準特選の中にも特選に比べて、そんな色のない作品もあり、来年からは分野ごとに特選を設けることを検討してもらいたいとの言葉を残された。

今後は美術工芸作家の一人一人の、たゆまぬ研鑽と意欲的な作品を制作され、本県の工芸の発展のために努力をお願いしたい。

<個人消息>

村上 正典	日府展出品	5月	東京都美術館	
	鳴教大陶芸展	5月	アミコシビックセンター	
	創作陶芸展	8月	〃	
森 昌男	中部染色作家協会展出品	7月	愛知県博物館	
西 浩子	県女流美術家展	9月	県郷土文化会館	
	県女流美術家小品チャリティー展	11月	アミコシビックセンター	
小栗加代子	第5回もめんの詩パッチワークキルト展	11月	アミコシビックセンター	
平井 恵子	日本現代染織造形展	1月	西独ミュヘンK16ホール	
	日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館	
		4月	京都市美術館	
	日本現代染織造形展帰朝記念展	4月	京都府立総合資料館	
	楽絲舎展	12月	東京桃林堂ギャラリー	
	平井恵子タピスリー展	4月	アミコシビックセンター	
	スーパーマジカルフリスマオーネントコンテストに入賞	12月	京都阪急百貨店	
	森 賢一	日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館
		日本現代工芸美術四国会展	1月	香川三越
	山本 和子	第73回光風展出品	4月	東京都美術館
中央公民館染色講座展		9月	四国電力ギャラリー	
新居 猛	朝日現代クラフト展招待出品	5月	大阪阪急百貨店	
		6月	東京 〃	
	国際家具展	11月	東京 晴海国際見本市会場	
西江 正夫	観光みやげ品展出品	3月		
矢野 款一	日本工芸会四国支部展	11月	高松三越 香川県知事賞受賞	
	陶の会焔	9月	アミコシビックセンター	
九十九健二	第1美術出品	5月	東京都美術館	
影谷美代子	徳島ハンドクラフト協会	5月	NHKギャラリー	
		7月	四電ギャラリー	
	藍染五つの世界	6月	四電ギャラリー	
	私の徳島クラフト展	8月	アミコシビックセンター	
森 浩	第9回日本陶芸展	4月	大阪 大丸百貨店	
	第29回日本民芸公募展	11月	大阪 日本公芸館 大阪府知事賞受賞	
日浦 久代	平和美術展	4月	県郷土文化会館	

	藍染五つの世界	6月	四国電力ギャラリー
	女流美術展	9月	県郷土文化会館
松山 豊	徳島陶芸会展	9月	アミコシビックセンター
	鳴門市展	10月	鳴門体育館
多智花佐代子	日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	楽絲舎織展	12月	東京 桃林堂ギャラリー
	現代工芸四国会展		高松 三越
松下 慶一	第三文明展入選		東京都美術館
	焔、陶の会展		アミコシビックセンター



# 書 道 部

部 会 長 田 中 双 鶴

## 年 間 展 望

年初めの書道展は、大学のクラブ展、卒展などで開幕され、将来期待の若人の心意気を示した。引き続き開催の書展は、春の小型の県展の異称のある博美展と県書展、秋の県展と芸術祭参加の社中展など書道ブームを反映して数多くの書展が妍を競った。今年の県展の審査員として、桜井琴風、黒野清宇の両氏が迎えられた。

なお、県書道界の痛恨事は、元老富永眉峰先生のご逝去である。先生は9月14日肺炎のためご急逝されたが、県書壇の一大損失である。慎んでご冥福をお祈りしたい。

### ◎ 第28回 博美展 (県博物館 5/20~24)

- 審査員 富永 眉峰、田中 双鶴、田中 栢翠
- 博美賞 玉城 乾香
- 優秀賞 西谷 香峰、山口 華城、広島 章子、鈴木 翠雲

### ◎ 第42回 県美術展 (県郷土文化会館 11/13~17)

- 特別賞 (徳島新聞社長賞) 藤若 美風
- 特 選 隅田 英二、藤若 美風、近藤 美香、田中 秀翠
- 準特選 鎌田 博文、佐藤 真堂、西岡 五峰、伊丹 東竜、富久 鳴泉  
阿瀬川寛司、樫原 溪川、薄田喜代子、北浦 喜流、宮城 明子  
玉城 乾香、永松 春苑、中川 富量

### ◎ 第2回 県書展 (県郷土文化会館 5/14~17)

- 大 賞 武市 鳴雲
- 準大賞 吉岡 景鷗、佐藤 真堂

### ◎ 第21回 県芸術祭

- (優秀賞) 隅田 英二、藤若 美風、吉岡 景鷗、片山 浩然、大平 京蘭  
東 弥生、清水 嘉子

### <個人消息>

#### 1 中央展、県外展に審査員として活躍し、審査員作品を発表した人々

- 第28回 太玄会書展 (東京都美術館 1/11~17)  
田中 双鶴、近藤 静苑、中尾 勝子
- 第23回 創玄展 (東京都美術館 3/7~12)  
一科審査員 久保 幽香
- 第9回書道学院展 (東京、産業貿易センター 4/14~19)  
勝瀬 景流、吉岡 景鷗
- 第41回 日本書芸院展 (大阪市美術館 4/14~19)

勝瀬 景流

- 第11回 由源社全国展（大阪国際見本市会館 5/16~18）  
勝瀬 景流
- 第39回 毎日書道展  
久保 幽香
- 第50回 全日本ペン書道展（東京都立産業貿易センター 8/3~16）  
勝瀬 景流
- 第3回 サンケイ硬筆展（東京都新宿セタービル5F）  
勝瀬 景流
- 第23回 日本硬筆書芸院展（岡山 玉野市民会館 10/8~11）  
勝瀬 景流
- 第9回 東京書作展（東京セントラル美術館 12/8~13）  
田中 双鶴

## 2 中央展・県外展に役員として作品を発表した人々

- 第28回 太玄書展（東京都美術館 1/11~17）  
（理事）春藤 大耿、田村 昇鶴  
（審査会員）笹尾 芳石
- 書道芸術院展（東京都美術館 2/7~17）  
（特別会員）西岡 楚峰
- 書道芸術院創立40周年記念役員展、全国巡回展（4月~63年3月）  
西岡 楚峰
- 第23回 創玄展（東京都美術館 3/7~12）  
（審査員）荒井 天鶴  
（無鑑査）荒井 彭仙  
（一科審）三木田栖鶴  
（二科審）成尾 荘秀  
（学審）岸 潮風、芝原醒鶴、長原 阜鷗、中山 青葉
- 第20回 聖雲書道展（岡山文化センター 3/24~29）  
勝瀬 景流、吉岡 景鷗、薄田 玲泉
- 第10回 聖潤会書展（岡山 森川美術館 3/26~29）  
勝瀬 景流
- 第9回 日本書道学院展（東京産業貿易センター 4/14~15）  
薄田 玲泉、堀淵 琴流、称木 香雲、川下 景風、河野 真流、赤川 景舟  
倉本 景雨、徳山 景城、竹内 虹舟、湊 景桃
- 第4回 現代俳句と書展（東京セントラル美術館 6/2~7）  
（評議員）久保 幽香、三木田栖鶴  
（会員）岸 潮風、芝原 醒鶴

- 第39回 朝陽書道展（岡山文化センター 6/9～15）  
勝瀬 景流、吉岡 景鷗、薄田 玲泉
- 東方書道展（東京都美術館 7/1～6）  
上田 溪水
- 第39回 毎日書道展（東京都美術館 7/8～17）  
荒井 天鶴、三木田栖鶴、長原 阜鷗、岸 潮風、成尾 莊秀、芝原 醒鶴  
荒井 彭仙
- 第4回 読売書法展（東京都美術館 8/13～19）  
勝瀬 景流
- 第39回 毎日四国展（愛媛県立美術館 8/18～23）  
久保 幽香、三木田栖鶴、長原 阜鷗、岸 潮風、成尾 莊秀、芝原 醒鶴
- 関西創玄15周年記念展（大阪 梅田近代美術館 8/18～24）  
中山 青葉、佐藤 宗香、庄野 星曄、竹田 香照、多田 清芳、浜 佳香  
森岡 禎幽、横谷 清亨
- 第12回 日本の女流展（東京セントラル美術館 8/18～23）  
久保 幽香
- 読売書法展（東京都美術館 8/26～30）  
上田 溪水
- 書道芸術院秋季展（東京セントラル美術館 10/6～11）  
西岡 楚峰
- 第13回 創玄現代書展（東京セントラル美術館 11/3～8）  
久保 幽香、三木田栖鶴、高岡 晃祥

### 3 中央展、県外展に入賞した入々

- 第28回太玄書展（1/11～17）
  - （会 員）（特別賞） 清水 嘉子
  - （奨励賞） 西谷 香峰、田中 久恵
  - （準会員）（推 薦） 中野 芳泉
  - （準推薦） 大塚 秀峰、大槲 一峰
  - （公 募）（特 選） 阿部 芳雲、笠井 宣江、播磨 恭子、由利 里子  
吉田美重子
  - （準特選） 井内 滋子、坂田美智子、須藤 和子  
谷口 博子、中野ハルエ、松永 裕子、三津 栄子  
古郷 恵美、頼野よし子、宮田 里佐、黒橋由加里  
大上 美恵、西村 佳子、馬淵 晴美、古川 恵巳
- 日本書芸院展（大阪市美術館 2/7～12）
  - （日本書芸院大賞） 上田 溪水
  - （二科推薦賞） 宇山 泰鳳

(特選) 長江 頌石

◦書道芸術院展(東京都美術館 2/7~17)

(無鑑査推薦) 坂本 青水、盤崎 永醒、若木 醒章、吉田 史草、加藤 芳仙  
大平 啓仙、横井 杜舟

(褒賞) 村沢 桂舟

◦第23回 創玄展(東京都美術館 3/7~12)

(一科秀逸) 玉城 乾香、多田 清芳、浜 佳香、米沢 美穂

(二科賞) 板東多万江、富永美知子、藤井夫佐江、大崎 玄穹

(準二科賞) 丸田 恵風、木田 史香、岸 緑香、大野 秀峰  
勝瀬嘉寿子、福永 培風

◦第39回 毎日展(東京都美術館 7/8~17)

(毎日賞) 佐藤 宗香

(秀作賞) 浜 佳香、竹内 和婉

◦第4回 読売書法展(東京都美術館 8/13~19)

(読売新聞社賞) 勝瀬 景流

(秀逸) 西岡 五峰、東 南光、吉岡 景鷗

◦第9回 東京書作展(東京都セントラル美術館 12/8~13)

(審査会員推挙) 春藤 大耿

(優秀賞) 清水 嘉子、岡島 順子、久保 直子、須藤 和子、富久 鳴泉

(奨励賞) 尾原 常子、清村 宗子、古郷 弘江、坂田美智子、炭谷 巖江  
西谷 香峰

#### 4 個 展

◦第5回 チャリティー田中双鶴書作展(そごう美術画廊 5/1~6)

田中 双鶴

#### 5 海外展

◦パリ芸術祭(フランス 8月)

(大衆賞) 久保 幽香

# デザイン部

部会長 坂本 三千一

## 年間展望

### ▶42回・県美術展◀

今年の県展は出品数は134点と久しぶりに大台に乗った。昨年在99点で増加の傾向にある。入選率が20.1%と過去最低に近い27点の入選となった。本来なら40%の入選が確保出来るはずであったが審査員・サイトウマコト氏の強い要望と出品者の将来を考え厳しい審査結果となったが、これが刺激となって皆んながんばってほしい。入選者にとって価値ある入選といえよう。

26回展よりデザイン部門が加えられて17年になり無鑑査が2名、1名が43回展から招待となる。ようやく招待が出来非常に喜ばしい、これで県展全部門に招待作家が揃ったことになる。

### ▶88徳島デザインイヤー◀

徳島の地域の活性化のためにデザインを通して何が出来るだろうと6月美協デザイン部をはじめ日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA=ジャグダ）徳島・徳島ADG・レタリングクラブ・ヴェラミデザイン研究会の5団体が集まって実行委員会を組織、88年をデザインイヤーとした。年間を通して個展やグループ展を展開し88年頭に県内のデザインに携わる人たちに呼びかけ、またJAGDAから87年版日本のグラフィックデザイン年鑑に収録された秀作ポスター92点を借り受け県内のデザイナー76名が参加、郷土文化会館で88年1月6日から12日まで開催された。デザインイヤーは今スタートしたばかりです。1年間の活動が期待されます。

### <行事>

第42回 県展デザイン部門 第二期・11月19日～23日・郷土文化会館

特別出品=坂本三千一

無鑑査=浅野 昌哉・斎藤 繁次

特選=坂野美恵子

入選=木邑 智子・天羽 恵子・山崎真起子

第28回・博美展デザイン部門 第一期・5月13日～17日・博物館

審査員=坂本三千一・浅野 昌哉・福井 章

入選=木邑 智子・斎藤 繁次

第16回・徳島市文化展デザイン部門 4月18日～4月23日・郷土文化会館

選考委員=坂本三千一・宮本 光夫・福井 章

招待=浅野 昌哉・坂野美恵子・田中 一郎

徳島市教育長賞=木邑 智子

徳島新聞社賞＝斎藤 繁次

出 品＝溝田 治朗

●デザイン部会展<辰展> 62年12月19日～12月26日・63年1月4日～11日・NHKロビー

●徳島県秀作巡回美術展 10月1日～12月7日・県内各地

デザイン部門＝浅野 昌哉・宮本 光夫・木邑 智子・坂本三千一

●藍住町美術展 11月28日～12月2日・藍住町緑の広場

デザイン部門＝坂本三千一・斎藤 繁次

#### <会員消息>

坂野美恵子＝とくしまイラストレーターズクラブ展（2月）市民ギャラリー

・四国女子大学・サギノーバレー大学交流展（6月）郷文

・個展（グラフィックデザイン展）（7月）郷文

・第72回・二科展デザイン部門佳作受賞（9月）東京都美術館

・とくしまイラストレーターズ展（9月）ナチュラル徳島

木邑 智子＝第3回・ヴェラミ展（6月）ナチュラル徳島

・昭和美術展・入選2点（7月）京都市美術館

溝田 治朗＝個展 4月～5月・ギャラリー・トマト

斎藤 繁次イラスト展＝7月ギャラリー・トマト

10月・四電鳴門営業所ギャラリー

土人倶楽部展出品＝5月・ギャラリートマト・斎藤 繁次・井上 稔

## 第42回徳島県美術展(県展)公募規定

部門区分	日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書	道	デザイン
搬入日	10月25日	10月24日	10月18日	10月25日	10月25日	10月17日		10月25日
搬入先	徳島県郷土文化会館							
審査日	10月25日	10月25日	10月18日	10月25日	10月25日	10月18日		10月25日
審査員	松本哲男	国領経郎	岩宮武二	木津一夫	浅野陽	桜井野	琴風守	サイトウ・マコト
出品料	協会員 1点目 2,000円 その他の方 1点目 3,000円 ・2点目からはすべて 1,000円							
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>未公開作品に限る</li> <li>点数は制限なし</li> <li>小・中学校在学者は出品できない</li> <li>20号以上 100号まで、横幅2m以内、額・枠張り(ガラス不可)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>20号以上(水彩・版画は10号以上)</li> <li>額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印画に限る)</li> <li>無鑑査以上は画面サイズ半切以上、単写真に限る</li> <li>裱張り・額(組写真は1パネルに全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m 重量200kg以内</li> <li>材料は自由、展示可能なものに限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>大きさ制限なし(ただし、平面作品はタテ2.2×ヨコ1.8m以内)</li> <li>木・竹・金工・陶磁・漆器・染色・織物・人形など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>半切又は全紙横<math>\frac{1}{2}</math>以上仕上げ面積が<math>147m^2(16平方尺)</math>以内縦・横自由(例)61cm(2尺)×242cm(8尺)裱張りに限る79cm(2.6尺)×181cm(6尺)91cm(3尺)×161cm(5.3尺)121cm(4尺)×121cm(4尺)</li> <li>額装まで額装アクリル入りでもよい無鑑査以上は半切以内</li> <li>●部門は漢字・仮名・近代詩文・前衛とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>B1パネル横728×縦1,030ミリ厚さ25ミリ程度</li> <li>課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)</li> </ul>	
入賞	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 3点 準特選 5点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 4点 準特選 8点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 2点 準特選 1点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 4点 準特選 13点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 特選 若干名	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。</li> <li>展示作品は一期は11月17日(火)、二期は11月23日(月)の午後5時から午後6時までに搬出すること。</li> <li>所定の期日までに搬出しない場合は、主催者において処分する。</li> </ul>							

招待・無鑑査・特別出品者名 (\*は都合により不出品)

- |                                    |                            |  |                                       |                     |                                |                           |               |                          |  |  |  |                           |  |  |  |  |   |  |
|------------------------------------|----------------------------|--|---------------------------------------|---------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------|--------------------------|--|--|--|---------------------------|--|--|--|--|---|--|
| ☆ 日 (特別出品)<br>高 (招村長荻橋田中矢 (無鑑査) 土) | 本 (特別出品)<br>岡 (待) 上尾野本測川野方 | 画<br>何 有<br>凌 雪<br>弘 子<br>行 夫<br>正 弘<br>靖 夫<br>秋 健<br>る 漢<br>み 子 | ☆ 洋 (特別出品)<br>* 河 (長佐 (招永清 森中川楠高立 露服長 | 野 (井野待) 山水 川原瀬橋岩口部尾 | 画<br>太 (公比 隆亟文隆康 敏 弘 真 正 清光英征雅 | ☆ 写 (特別出品)<br>福 (招增井木西勝藤武 | 島 (待) 田上田条西井内 | ☆ 書 (特別出品)<br>荒 (田田 (招西久 | ☆ 工 (特別出品)<br>美 (招新高森 森七多松松 (無鑑査) 智 条花下下查) | ☆ 術 (特別出品)<br>美 (招新高森 森七多松松 (無鑑査) 智 条花下下查) | ☆ 藝 (特別出品)<br>美 (招新高森 森七多松松 (無鑑査) 智 条花下下查) | ☆ 道 (特別出品)<br>書 (荒田田 (招西久 | 敏 博和照 芳謙晴 塑 文 良 文 俊邦 悦 昌 猪佐雄慶 賢 道 天双栢 楚幽 | 雄 魏司義文 久吉美 夫 行隆昭恵作宏勉 子 猛勇男浩郎子介一 一 鶴鶴翠 峰香 | 新 讚仲宮長高西成渡長原三芝前清美春岸中長勝川三近上日岡荒竹 (無鑑査) 山武吉松大浜多 | 居 岐 井原原 尾辺江田田原川水馬藤 谷谷瀬上間藤田下島井田查) 口市岡本石 田 | 藍 泰三青阜清南荳草清霄栖醒古桂幾 大潮史美景虹好静溪溪順彭和 華鳴景清加佳清 | 州 泉人雨鵬泉龍秀石幽月鶴鶴舟月賀歌風子峰流泉鷺苑水翠子仙代 域雲鵬香子香芳 |
|------------------------------------|----------------------------|--|---------------------------------------|---------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------|--------------------------|--|--|--|---------------------------|--|--|--|--|---|--|



# 博美展博美賞受賞者一覧 (昭和41~62)

年度	回	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書 道	商業美術 (デザイン)
41	7	西岡 範子	高橋 敬	平山 成美	細川 直毅	森 浩	長原 阜鶴	
42	8	中川 健	長條 公子	吉田 紀夫	榊原 八重美	〃	長江 清幽	
43	9	天羽 成芳	浜 正寛	中西 定雄	谷村 薫子	長條 公子	渡辺 草石	
44	10	片岡 良治	坂東 弘憲	川上 健司	小野寺 穰	大西 先	成尾 莊秀	
45	11	長谷 寿	〃	原田 敏雄	松永 勉	松下 雄介	芝原 醒鶴	
46	12	真鍋 学	霜田 精奏	〃	霜田 精奏	〃	喜多村 成蹊	
47	13	〃	関 政明	隅地 通雄	玉田 修平	〃	中口 操	
48	14	今川 一水	小梯 薫子	矢口 保二	吉田 伯美	〃	田中 美智子	糸井 由美子
49	15	大久保 雅生	岡久 薫	吉田 正勝	井藤 信正	〃	中尾 勝子	永井 道子
50	16	釣島 冬樹	真野 孝彦	大西 健一	露口 幾也	〃	久米 聰香	松波 美子
51	17	吉崎 進	矢本次郎	小池 良洋	美濃 和子	多智花 佐代子	山本 寛水	森 敏香
52	18	大久保 雅生	四宮 久子	湯本 一生	榎本 宏子	香川 文孝	大松 静子	増田 伸寛
53	19	小松 久子	島川 清	東条 かつ子	中岡 陽子	〃	佐野 天靖	浅野 昌哉
54	20	日浦 猛史	四宮 久子	森 貢	伊勢 洋子	松下 慶一	長江 頌石	永井 道子
〃	〃	大賞 西野 和男	岡田 守	東条 かつ子	(該当者なし)	多智花 佐代子	鈴木 郁子	竹森 陽一
55	21	中西 芳雄	宮本 陽子	林 敏彦	瀬部 瑞城	香川 文孝	武市 鳴雲	増田 和夫
56	22	佐々木 文子	藤川 明子	〃	(該当者なし)	松下 慶一	佐原 和清	田村 千代子
57	23	金子 綾子	〃	〃	井上 史朗	日浦 久代	表原 輝実	寺本 礼子

年度	回	日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書道	商業美術 (デザイン)
58	24	中川正志	藤川明子	尾崎孝幸	瀬部瑞城	山本和子	広島章子	藤本孝明
59	25	井原順子	森史人	田村泰弘	佐藤敬子	原田史郎	豊田乾香	加島由季
"	"	大賞	鶴悦子	林伸也	佐治孝	松田寿	中尾勝子	猪井秋人
60	26	"	真野孝彦	橋本圭祐	"	矢口武之	大松静子	森本尋子
61	27	金子綾子	吉永房子	前浦芳久	渋谷吉昭	阿部和代	中尾勝子	木川隆志
62	28	原郷由美子	杉本英治	菅藏久	吉田真理子	岡部育子	玉城乾香	"

## あ と が き

昭和62年度美術年報をおとどけます。

第41回県展（昭和61年度）からいろいろと改革をして開催してみました。すが、すべてが満足するようにはならず、また42回展から2期制としました。さらに建設的な意見をだして県民に親しまれ愛される県展としなければならぬと思います。

例年のとおり、各部会長から各部に関する1年間の記録をご執筆いただくとともに、表紙を彫塑部の井下俊作氏からいただきました。

本会発展のために会員の方々のご支援をお願いいたします。

昭和63年3月

県美術家協会事務局

昭和63年3月23日 印刷

昭和63年3月25日 発行

編集者 清水 博

装幀者 井下 俊作

発行人 砂川 健治

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会